

～薪王国信州の確立～ 「薪談義」 を開催！

開催日：平成 25 年 2 月 17 日

場所：塩尻市総合文化センター

2月17日（日）、塩尻市で開催された「森林フォーラム」の併催行事として、長野林政協議会（構成：長野県林務部、中部森林管理局）では、薪王国信州の確立に向け「薪談義」を開催しました。当日は、約60名の方が参加し、身近な暖房である薪について活発な意見交換が行われました。

◇ 「薪談義」 概要 ◇

1 パネラー

杉山 博雅（週刊チャコールタイムズ代表主幹） 辻 潔（日本林業調査会代表取締役社長）
鈴木 信哉（中部森林管理局長、司会）

2 談義での主な発言内容

- ・ 灯油価格が上昇する中、「薪」が見直されている。
- ・ 薪を使う側（需要）と作る側（供給）が、全く結びついていないことが問題（ミスマッチ）。
- ・ 信州は首都圏、中京圏から100km圏内であり、薪の供給が可能。
- ・ 中京圏ではと鋳物製造と銭湯が多く、全国の中でも薪需要が非常に大きかった。昭和35年にオガライトが作られて以降、薪需要が一気に減少した。
- ・ 最近になって、ピザ屋等の外食産業で需要が出てきた。（都内にピザ屋は18店/月オープン、その内7店が薪を使用。全国のピザ屋の売上げは2,500億円/年。）
- ・ 薪ストーブの販売は、最近2年で3倍と好調であるが、一方で薪生産が後追いの状況。
- ・ 薪の流通を見ると、「生産者→問屋→小売業→需要者」が一般的である。
- ・ 薪の規格は尺2（36cm）と尺6（48cm）の2種類があり、尺2の需要が増えている。（小売価格は600～650円/束）
- ・ 需要者が、安心・安全で使えることが必要。

3 参加者からの意見

- ・ 需要はもっとあるはずだが、流通が見えず直接販売することができない。
- ・ 燃料業界と薪生産者の接点がない。問屋としては薪はもっと欲しい。
- ・ 前年実績で量を決めているので、今年のような需要増に対応できないことが課題。
- ・ 薪生産については、半分以上は自己生産。統計上の数値にはこれが反映されていない。
- ・ 長野県の薪需要量は、ストーブの販売台数から20万m³/年程度であると推測される。

4 今後の課題等

- ・ 需要側と供給側の結びつきをどう図るのか。
（マッチングの検討）
- ・ 薪の規格の統一化、原木の安定供給。
- ・ 安心・安全を確保するための品質等の確保。

